

# 日刊 動労千葉

84. 10. 29

No. 1778

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七



自前の横断幕をおし立てて行進した。（10・10三里塚）

支部一丸となって、廃止を阻止する  
—支部長・大塚 孝—

蘇我支部の組合員は、当局が八月二九日に蘇我機関支区廃止の提案をしたことに驚きと怒りの声をあげました。

ただちに開いた職場集会には、支部大会と同じぐらいに組合員が参加し、署名運動や立て看板づくりなど、支部一丸となった取り組みにより廃止攻撃を粉碎することを決定しました。

「10・10三里塚への五割動員を実現しきる支部の組織力・団結力なくして蘇我機関支区廃止粉碎はありえない」を合言葉に、支部始まって以来の二〇名参加をかちとりました。

これは、蘇我廃止という問題を一人ひとりの組合員が自覚し、真剣に考えていることだと思えます。

この力で団結して闘っていきます。組合員は毎日不安な気持ちで仕事をしていますが、当局が提案する前に皆んなで行動を起こし、蘇我機関支区廃止攻撃を粉碎しようではありませんか。

全支部のみなさんの御協力をお願いします。



決意表明に立つ 孤田副支部長。（10・10成田運転区）



大塚支部長を先頭に五割決起を実現した蘇我支部。（10・10前段集会）

## 10・10五割動員実現の力で 蘇我機関支区廃止を阻止する 闘う決意

国鉄当局は内達「動乗勤の改悪協定実施、検修合理化、基地統廃合を中心とする「60・3ダイ改」において、二五〇〇〇人の要員合理化を狙っている。

千葉局の概要説明では、①動乗勤で二〇〇人、その他で一〇〇人、②動乗勤協定により「乗務効率」を国電60%、その他50%の私鉄並にする、③外周区の東京乗り入れ、④蘇我機関支区の廃止、および成田運転区の縮小、⑤「外勤兼車検」の発令、⑥混運用の実施、等について明らかにしている。

われわれは交渉において当局を追及してきたが、具体的提案があり次第、あらゆる戦略・戦術を駆使し断固反撃に決起できる体制をうち固めている。とりわけ、蘇我支部の仲間は基地廃止提案と真向から対決し、職場討議と情宣を重ねるなかで、支部執行部の奮闘を先闘に青年部の行動力を牽引車として、「10・10」には文字どおりの三里塚五割決起を実現し、自前で作りあげた横断幕を先頭にかかげ、二千枚のピラをまき、「支区廃止絶対粉碎！」にむけて闘う意気に燃えている。

蘇我支部の仲間の決意をわがものとし、組織の総力で闘いぬこう。

青年部は 全力で闘いぬく  
—支部青年部長・石川二郎—

国鉄当局は、蘇我機関支区を含む、全国一〇一基地の廃止提案をしてくきました。

この間われわれは、当局交渉などを行い、蘇我機関支区廃止絶対反対で闘いぬいてきました。

当局の提案を許してしまえば、つぎに運転基地などの廃止・縮小の攻撃をかけてくることは明らかです。

当局の悪らつきわまりないあらゆる攻撃は、動労「本部」が闘いを放棄して「話し合い」だけで、当局の言うがままになっていることにあると思えます。

われわれ蘇我支部青年部は、10・10三里塚に見られるように、今までにない結集を実現することができました。この力で、国鉄当局による労働運動破壊攻撃粉碎！反動・中曾根内閣打倒にむけて、全力で闘いぬく決意を明らかにします。